

2018年
5月
No.209

県病ニュース春号

【理念】 奉仕・信頼・進歩

『病院が受けるいろいろな評価』



院長 井上 敏郎
いのうえ としろう

最近、病院を良くするために行われる外部評価は一方通行の評価ではなく、病院同士が相互に評価し合ったり、自己評価と外部からの評価を比較して問題点を浮かび上げられ、解決・改善していくやり方

が一般的になっています。

従来から県立病院では県による医療監査、県議会議員や公認会計士による監査などさまざまな外部評価、監査を定期的に受けています。

これらは基本的には評価する側と評価される側があり、最終的には責任機関から評価結果が伝えられる、いわば一方通行型です。病院は指摘された事項の改善に取り組みねばなりません。

他方、病院同士は医療安全や院内感染防止の状況について仲間同士ではあるものの相互評価し合う取り組みがあります(ピアレビュー)。また、第三者機関が行う病院機能評価は病院の質が多項目にわたって問われ、しかも密度も大変濃いものです。

自己評価と機構による評価



の両者を行うことで、独りよがり無くし、透明性を高め、自主的・積極的にかつ持続的に質改善への取り組みを生み出すのが狙いです。

県立病院では昨年12月に3回目の病院機能評価3rdG:Ver.1.1を受審しました。事前の自己評価により様々な問題点を抽出し、自主的に改善に取り組んだ上で、実際に病院機能評価機構から派遣された6人の評価者による評価を受けました。職員は日頃の業務に加え、さらなる負担を乗り越え

準備しました。お陰様で機構から病院機能評価認定の結果報告が届きました。

大変恐縮なのですが、この間の病院職員の努力に対してできれば一人でも多くの患者さんに褒めていただければ大変有難いと思っています。そのことが職員の二層の努力に結びつくと信じておりますので宜しくお願います。



県病WEBサイトを 全面リニューアルしました

患者さんや医療関係者など、院外の方々がいち早く知りたい病院の情報を得る手段としてWebサイトがあります（一般的にはホームページとも言います）。

Webサイトの役割として、患者さんなど一般の方々が容易に情報を入手でき、分かり易く正確な情報をスピーディに提供することが重要です。

県立病院の初代Webサイトを平成26年にリニューアルしました(二代目)。それから3年以上が経過し、二代目Webサイトについても院内・院外からご意見を頂き、三代目リニューアルに向けてのアンケートも行いました。主な意見としては、「ボタンが多すぎるなど構造が複雑で知りたい情報にたどり着かない」、「採用に関する詳しい内容がもっと知りたい」、「スマートフォンで見たときに画面表示に崩れがある」、「画面デザインがイマイチ」などなど……。最近のほかの病院のWebサイトを見ると確かに分かり易く、デザインも惹かれるモノがあります。

院内ワーキンググループを立ち上げ検討を重ねること数ヶ月～1年、患者さんや医療関係者、就職希望者の方々にとって、さらにより良い情報が提供できるよう、今年4月に三代目の県立病院Webサイトにリニューアルしました。

新しいWebサイトの魅力は、利用する方々を意識して、「来院される方へ」、「医療機関の方へ」、「就職を希望する方へ」、「当院について」と大きく4つに分けるとともに、特に閲覧頻度の高いメニューをトップページにわかりやすく配置することで、目的の情報にたどり着きやすい作りをしています。

また、県立病院に対して信頼感や安心感を皆さんに感じてもらえるようスタッフや各部署の写真などの掲載を増やしました。採用情報のページには、職員の体験談や働く姿を紹介し、就職希望者への情報を充実しています。もちろん最近では使用頻度の高いスマートフォンなどでの閲覧も見やすく改善して



初期臨床研修医 座談会



います。

院内・院外からの意見を踏まえ、その他にもいろんな工夫を取り入れ、他の病院にも負けないWebサイトに仕上がっていると思います。今後も患者さん、医療関係者、就職を希望される方々など、常に分かりやすい情報を提供していく努力を続けていきますので、一度新しい県病Webサイトをのぞいて頂いて、ご意見を頂きますようご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。

病院機能評価更新について

病院機能評価は、日本医療機能評価機構が基幹的病院を対象として、体制、手順の整備等の構造的な内容について外部サーベイヤーによる審査を行うものです。

当院は2008年以来、病院機能評価の認可を受けており、今回が3回目の更新受審となりました。評価項目の視点は「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践(1、2)」「理念達成に向けた組織運営」の大きく4つからなり、89の観点から病院の責務を網羅的にチェックするとともに、外来・入院患者さんに直接関与する診療・看護領域のみならず、病院内各職種の協調性、病院収支、労務管理等、多角的な視点から評価を受けます。

2017年末の受診を予定し、病院全体としては2016年末から上記審査項目にそごう仕様やルールとなっているかについて、準備委員会を立ち上げ、病院の現状と問題点・改善点の洗い出し、および炙り出された各課題の解決・改善に向けての行動目標と確認事項を設定し、1年余にわたって準備してきました。

院内各部署でチェックを行う過程で、日頃から諸所留意していても、なお根本的な問題点もいくつか抽出されました。細かい改善点を含め修正の取り組みを行い、12月13日(水)～14日(木)の受審を迎えました。

2日間を一言で申せば、濃い厚い率直な目まぐるしい重い忙しい有意義な受審でした。



受審後4ヶ月を経て、設定取得の運びとなり、3月に認定証が届きました。評価内容はS評価、A評価およびB評価が各々2項目、82項目および5項目で、概ね満足する成績が得られました。

ただし、B評価の項目を中心として、さらに病院内の諸改善点が明確に示された点もあり、この受審を機に院内業務の更なる改善と向上にむけて努力したいと考えます。

文責：佐藤昌司

当院受診の際には、 普段お使いのお薬をお知らせください

当院ではお薬による治療を安全に行うために、患者さんが**普段お使いになっているお薬**についての確認を行っています。

★診察の際には★

お薬手帳やお薬説明書、他施設からの紹介状などをお持ちください。

(お薬の内容を確認します)



★入院の際には★

現在使用中のお薬と、お薬の情報をお持ちください。(お薬の内容や使用方法、持ち込み数の確認も行います)

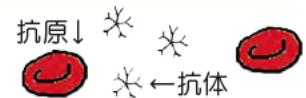
- ①**現在使用中のお薬のみ**ご持参ください。
ただし、手術や検査をするために一時的に中止しているお薬はお持ちください。
- ②**入院期間中に必要な日数分だけ**お持ちください。
- ③**現在使用中のお薬の内容**が載っているお薬手帳、お薬説明書、薬袋などをお持ちください。



血液豆知識

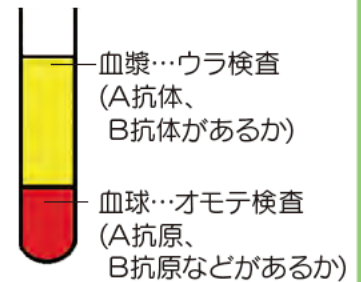
～血液型が違う輸血??～

人の体には、自分の体にはないもの(抗原)を見分ける力が備わっており、それを認識すると「抗体(警備隊のようなイメージ)」を使って排除します。



人の血液を分離すると、^{けっしょう}血球と血漿に分けられます。

血液型検査では、オモテ検査(赤血球)とウラ検査(血漿)を行います。オモテ検査は赤血球表面にある血液型抗原を調べ(A抗原、B抗原など)、ウラ検査は血漿中にある血液型抗体(A抗体、B抗体)を調べることをいいます。



血液型検査は、オモテ検査とウラ検査の両方を必ず行います。

O型の赤血球はA抗原・B抗原がなく、A型・B型の血漿と反応を起こしません(オモテ検査)。よって、O型赤血球はすべての血液型の人に輸血が可能で万能血といわれます。

一方、AB型献血者の血漿にはA抗体・B抗体がなく、A型・B型の赤血球と反応を起こしません(ウラ検査)。AB型の血小板・血漿製剤は、すべての血液型の人に輸血が可能です。



外来からのお知らせ（案内や通訳サービスについて）

【受付時間と診療科決定について】

大分県立病院では、月曜日から金曜日の間、看護師は8:30～11:00まで、事務職員は8:00～13:00まで総合案内で受付対応を行っています。患者さんの主な症状や訴えをお聞きし、診療科をご案内しています。

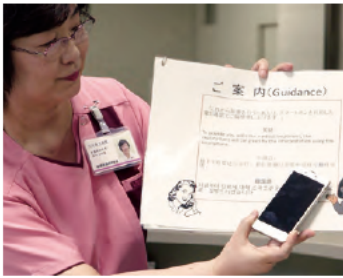


【手話通訳のサービスを開始しました】

手話通訳用のタブレットを用意し、画面を見ながら手話通訳を行うことができます。月曜日から金曜日までの8:30～11:00まで、総合案内で受け付けています。

【多言語通訳サービスを開始しました】

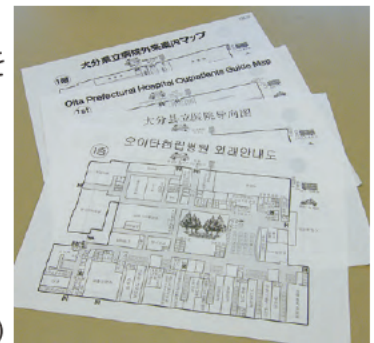
24時間いつでも多言語の通訳サービスが受けられます。外国人の方でも安心して受診していただけるようになりました。



また、総合案内には外国語の院内マップを用意しています。日本語、英語、中国語、韓国語で作成したものがあります。

ご来院の皆様が安心して受診していただけるようにサポートします。何でもお気軽にご相談ください。

（看護部副部長兼外来看護師長 河野伸子）

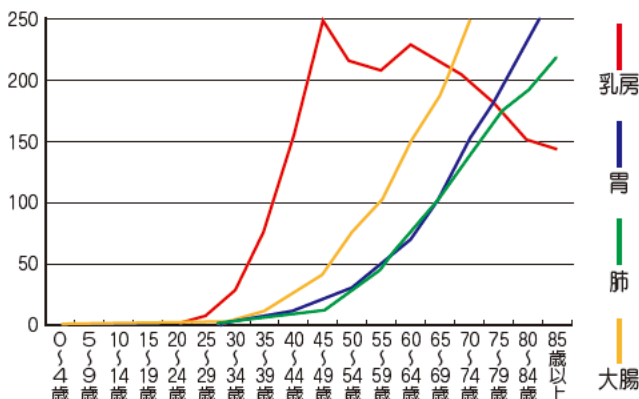


乳がん検診のすすめ

最近、乳がんを公表する有名人が増え、乳がんを題材にした書籍や映画をみかけるようになり、乳がんへの関心の高さが伺えます。しかし、“自分は大丈夫だろう”とどこか他人事のように感じてはいませんか？

昔に比べて生活スタイルも変化し、一生の間に乳がんにかかる確率は11人に1人(女性罹患率第1位)、その年代も30代から増加し、40代、50代にピークを迎えます。

しかし大分県の乳がん検診受診率は41.3%(H28年)と国が掲げる目標の50%に届いていません。(大分県がん対策推進計画(第3期)の概要より)



女性の乳がん年齢階級別罹患率(全国推計値、2012年)
国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」より抜粋

子育て真っ只中、働き盛りで何かと忙しい中、自分の体のことはついつい後回しになってはいませんか？乳がんにかかった血縁者の有無、出産や授乳経験の有無等、かかりやすい特徴はありますが、まずは検診を受けることが早期発見につながります。大切な家族のためにも、安心して生活を送るためにも、乳がん検診を受けましょう。

当院でも患者さんが安心して検査が受けられるよう努めています。わからないこと、不安なことがあればお気軽にお申し出ください。

「高齢者の食事の工夫」シリーズ<その6>

～ 便秘予防 するり・すっきり生活のコツ ～

加齢ともなって、便秘に悩まされていませんか？高齢者の便秘の原因として、少ない食事量、身体活動量の低下、生理的機能の低下などが主にあげられます。

そこで、便秘予防のポイントを紹介します。

①1日3食規則正しく食べる。

特に、朝食を摂ることは腸の刺激となります。ボリュームのある朝ごはんを食べて、大腸を動かしましょう。

②食物繊維たっぷりの食事を心がける。

食物繊維は便のかさを増やすほか、水分を含ませ便がかたくなるのを防ぎます。穀類、豆類、野菜、果物、きのこ、海そうなどを多く食べましょう。

③水分を十分にとる。

食事のときのほか、起床時、食事と食事の間、お風呂上がりなどこまめに水分をとりましょう。起床時に冷水や冷たい牛乳をコップ1杯程度飲むと腸の刺激になります。

④食事に適度の油脂を取り入れる。

油は腸での潤滑油となり、便を出しやすくします。無理に揚げ物を食べたりしなくても、肉や魚、乳・乳製品、ナッツ類、ドレッシング、バターなど油脂を多く含む食品からもとることができます。

このほか生活面では、便意がなくても一定の時間にトイレに行く、適度な運動で腸の活動を活発にすることも大切です。

(栄養管理部 管理栄養士 稲垣孝江)



がん相談 支援センターより 長期療養中の患者さんへ仕事と治療の両立支援

当院では、昨年5月より「がん・肝炎・糖尿病など」で長期にわたる治療のために離職または転職を余儀なくされている方を対象として、大分ハローワークの就職支援ナビゲーターによる出張相談を行っています。例えば、こんなときにご相談ください。

- 通院の必要はあるが、働きたい。
- 自分の病状、体力にあった仕事を見つけたい。
- 治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい。
- しばらくぶりに仕事に戻ることへの不安を解消したい。
- 就職活動で、企業に病気のことを伝えるべきか迷っている。
- 面接の時に病気のことをどこまで言えばいいの？



< 昨年の相談例 >

- ・「仕事を辞め転職を考えている。資格を取って働きたい。」
→職業訓練校の紹介を受けて通学することになりました。
- ・「今後の就業について漠然とした不安がある。どこから整理したらよいか相談したい。」
→就職支援ナビゲーターと面談し、心配事の整理や就業に向けた助言を受けました。



相談は、毎月第1、第3、第5水曜日に、**完全予約制**で行っています。ご予約は右記問い合わせ窓口まで電話していただき、ご相談の日時を決定いたします。当院を受診していない方でもご利用いただけます。
※ご注意：相談当日は就職先の紹介は行いません。具体的な求人案内や各種手続き等は後日ハローワークの窓口で行います。

お問い合わせ窓口

【場所】 大分県立病院
がん相談支援センター
【TEL】 097-546-7062 (直通)
【受付時間】 月～金 8:30～17:00
ご相談内容についての秘密は守ります。
どうぞお気軽にご利用ください。

医療ネットワーク

転院・退院支援について

診療支援センターでは、医療ソーシャルワーカーや退院支援看護師が中心となり、転院される方や自宅で療養する方の相談・調整などの支援を年間1,246件(平成29年)行っています。



このような不安について患者さんやご家族の方と一緒に考えながら、一つ一つ丁寧に支援しています。

安心・納得して転院や自宅退院ができるように、転院先となる地域の医療機関や、ケアマネージャーなどの在宅担当者と連絡をとり、患者さんやご家族の方を交えた話し合いを持ちながら相互理解を深め、転院や退院に向けた調整をしています。



住み慣れた地域で生活しながら安心して療養できるように、患者さんやご家族の方を“連携の輪”の中心にして、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士などの院内スタッフや、在宅を支える訪問診療の医師や看護師、ケアマネージャーなど関係者とのチーム連携を大事にしています。

外来診療一覽表

注) 診療日が変更になる場合もありますので、予めご了承ください。
(平成30年5月1日現在)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
循環器内科		○	○	検査日	○	○
内分泌・代謝内科		○	○	○	○	○
消化器内科		○	○	○	○	○
腎臓内科		休診	○	休診	○	休診
膠原病・リウマチ内科		○	休診	○	○	○
呼吸器内科	新患 再来	○	急患のみ ○	○	○	○
呼吸器腫瘍内科		○	休診	○	休診	○
血液内科		○	○	○	○	○
神経内科		○	○	○	○	○
外科	消化器 乳腺	○	○	○	○	○
脳神経外科		手術日 休診	○	○	○	手術日 休診
呼吸器外科		○	○	休診	○	○
心臓血管外科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
整形外科		○	○	手術日 休診	○	○
形成外科		○	○	○	○	○
眼科		○	手術日 予約のみ	○	手術日 予約のみ	○

診療科	曜日	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科		○	○	手術日 休診	○	○
婦人科	新患 ※紹介患者さん優先と させていただきます。 再来	○	手術日 休診 ○	○	手術日 休診 ○	○
産科		○	○	○	○	○
小児科		○	○	○	○	○
新生児科		○	○	○	○	○
小児外科		○	○	○	手術日 休診	○
内視鏡科	消化管 気管支	○ 休診	○	○ 休診	○	○ 休診
皮膚科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
泌尿器科	新患 再来	○	○ 手術日 休診	○	○ 手術日 休診	○
精神神経科		○ 予約制	○ 予約制	○ 予約制	○ 予約制	○ 予約制
緩和ケア外来		○ 15時から	休診	休診	休診	休診
放射線科		○	○	○	午前中 休診 ○	○
歯科口腔外科		○	○ 予約のみ	○	○ 予約のみ	○
外来化学療法室		○	○	○	○	○
診療科の判断が 困難な場合の 担当診療科		消化器 内科	1・3・5週 内分泌・ 代謝内科 2・4週 循環器 内科	呼吸器 内科	神経 内科	血液 内科

アクセス

至興来 至放開 至豊原

JR: 大分駅からタクシーで約15分または
南大分駅からタクシーで約8分
バス: 大分駅前・トキ八前バス停からバス・徒歩を含めて約25分
(大分市内中心部から約25分間隔で運行)
駐車場: 有料駐車場(約400台)完備(1時間まで無料)

受付時間 午前8時～午前11時

救急患者は24時間受入

紹介による受診に関する事は…
地域医療連携班
平日(土・日・祝日除く)
午前8時15分～午後5時(受付は11時まで)
TEL 097-546-7129
FAX 097-546-7368

診療開始時間 午前8時30分

休診日 土・日・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)

療養中の心配事や不安などは…
患者相談支援班
平日(土・日・祝日除く)
午前8時30分～午後5時
TEL 097-546-7125

Oita Prefectural Hospital
大分県立病院

〒870-8511 大分市大字豊崎476番地

TEL 097-546-7111～2(代表) FAX 097-546-0725 総務経営課広報係 2710(内線)
E-mail a80200@pref.oita.lg.jp ホームページ <https://www.oitapref-hosp.jp/>

※当ニュースへのご意見・ご感想は1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

